

**CASBEE-新築(簡易版)2008年版**  
**(仮称)次期環境事業センター整備事業**

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2008年  
 評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>0 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>					<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.0</b>	0.15	-	-			<b>2.0</b>
1.1 騒音		<b>2.0</b>	0.40	-	-			
1.1.1 暗騒音レベル		<b>2.0</b>	1.00	-	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		<b>2.6</b>	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	-	-			
1.2.2 界壁遮音性能		<b>2.0</b>	0.40	-	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.4</b>	0.35	-	-			<b>2.4</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定		<b>3.0</b>	0.38	-	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
2.1.4 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38	-	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.1</b>	0.25	-	-			<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		<b>3.6</b>	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率	1F管理事務室:昼光率=2.44%・・・2.0%以上~2.5%未満	<b>4.0</b>	0.60	-	-			
3.1.2 方位別開口		-	-	-	-			
3.1.3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
3.3.1 照度		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	-	-			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質	規制建材についてF をほぼ全面に使用	<b>4.0</b>	1.00	-	-			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
4.2.1 換気量		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
4.2.2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	全館禁煙	<b>5.0</b>	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.8</b>	0.40	-	-			<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.60	-	-			
1.1.1 広さ・収納性	一人あたりの執務スペース17.2㎡ 12.0㎡	<b>5.0</b>	0.33	-	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		<b>1.0</b>	0.33	-	-			
1.1.3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>2.6</b>	0.40	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	事務室天井高=2.7m 2.7m	<b>4.0</b>	0.33	-	-			
1.2.2 リフレッシュスペース		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
1.2.3 内装計画		<b>1.0</b>	0.33	-	-			
1.3 維持管理		-	-	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.5</b>	0.31	-	-			<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性	建築基準法に定める25%増しの耐震性を有する	<b>4.0</b>	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	長寿命の管種を採用(給水:VLP、給湯:SUS、排水:VP)	<b>5.0</b>	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具の使用、井水、中水の利用可能な計画。	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電設備を設置、設備の地下への設置を避けている	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化を図り、設備の地下への設置を避けている	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m 3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.224...0.1以上~0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=35.1	5.0	0.43	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.29	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.6	0.15	-	-	3.6
1.1	節水	節水コマに加え省水型器具などを用いている	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無	雑排水利用システム有り	4.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材の分別が容易な仕様	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を一切使っていない	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2は一般値の87%(13%減)	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置き場の確保とともに管理用車両の駐車スペースを確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	